

免疫システムについて
免疫システムは自然治癒力の本体をなす生体防御機構ですが、自然免疫と獲得免疫に大別され、互いに協力して病原性微生物（細菌やウイルスなど）と闘う感染抵抗性やガン細胞を撃退する生体防御能などに関わっています。

自然免疫は生来備わっている先天性免疫で、すべての多細胞生物に存在する非特異的な生体免疫は進化に対応して獲得した防御機構です。これに対し獲得免疫は進化に対応して獲得した後天性の免疫システムで、脊椎動物だけにあり、自己にあらざるもの（非自己）を抗原と認識して抗体を產生し、抗原抗体反応で非自己を撃退する特異的な免疫反応です。しかし高度の抗原特異性を獲得した獲得免疫は、外来抗原に過剰に反応してアレ

ルギー疾患の、自己の細胞に異常に反応して自己免疫疾患の病因になりますので、抗原抗体反応（免疫応答）の恒常性（ホメオスター・シス）を維持する

免疫能に及ぼす 光線療法の作用

免疫能に及ぼす光線療法の作用は、かつては紫外線で生成されるビタミンDを始めとする光化学物質の作用が重視され、本紙にもしばしば記載しました。例示すればビタミンDが獲得免

とが大切です。

サナモア光線療法の温熱作用について —熱ショック蛋白質の自然免疫能亢進作用— —その2—

サナモア光線協会 サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

ルギー疾患の、自己の細胞に異常に反応して自己免疫疾患の病因になりますので、抗原抗体反応（免疫応答）の恒常性（ホメオスター・シス）を維持する



発行所
〒153-0063 東京都目黒区目黒
4-6-18
サナモア光線協会
年4回発行
会員費年500円
電話 東京(03) 3793-5281
3712-5322

自然免疫とは

が明らかにされ注目されていま

自然免疫は病原体を即座に認識して攻撃を仕掛け、個体が抗原抗体反応で病原体に立ち向かうまでの空白の時間をうめる働きをしていますが、体液による

光線療法に関しては、前号で傷害から細胞を保護する防御作用を記述した温熱作用で生成される熱ショック蛋白質が体液によ

免疫システムについて

免疫システムは自然治癒力の本体をなす生体防御機構ですが、

自然免疫と獲得免疫に大別され、互いに協力して病原性微生物（細菌やウイルスなど）と闘う

感染抵抗性やガン細胞を撃退する生体防御能などに関わっています。

自然免疫は生来備わっている先天性免疫で、すべての多細胞生物に存在する非特異的な生体免疫は進化に対応して獲得した防御機構です。これに対し獲得免疫は進化に対応して獲得した後天性の免疫システムで、脊椎動物だけにあり、自己にあらざるもの（非自己）を抗原と認識して抗体を產生し、抗原抗体反応で非自己を撃退する特異的な免疫反応です。しかし高度の抗原特異性を獲得した獲得免疫は、外来抗原に過剰に反応してアレ

ルギー疾患の、自己の細胞に異常に反応して自己免疫疾患の病因になりますので、抗原抗体反応（免疫応答）の恒常性（ホメオスター・シス）を維持する

疫をになうマクロファージやリンパ球（T細胞、B細胞）の細胞分化を誘導して活性化し、細胞の機能を阻害するカルシウムパラドックスを予防する等々で

自然免疫は病原体を即座に認識して攻撃を仕掛け、個体が抗原抗体反応で病原体に立ち向かうまでの空白の時間をうめる働きをしていますが、体液による

自然免疫と獲得免疫の補助的な原始的な免疫システムとの概念は修正を迫られています。

光線療法に関しては、前号で傷害から細胞を保護する防御作用を記述した温熱作用で生成される熱ショック蛋白質が体液によ

る自然免疫能を亢進させること

自然免疫能を亢進させること

自然免疫能を亢進させること

自然免疫能を亢進させること

自然免疫能を亢進させること

自然免疫能を亢進させること

自然免疫とは

が明らかにされ注目されていま

疫の重要性を裏付ける研究が相次ぎ、自然免疫は獲得免疫の補助的な原始的な免疫システムとの概念は修正を迫られています。

光線療法に関しては、前号で傷害から細胞を保護する防御作用を記述した温熱作用で生成される熱ショック蛋白質が体液によ

る自然免疫能を亢進させること

体液による 自然免疫能の亢進

自然免疫能を亢進させること

自然免疫能を亢進させること

自然免疫能を亢進させること

自然免疫能を亢進させること

自然免疫能を亢進させること

自然免疫とは

が明らかにされ注目されていま

疫の重要性を裏付ける研究が相次ぎ、自然免疫は獲得免疫の補助的な原始的な免疫システムとの概念は修正を迫られています。

光線療法に関しては、前号で傷害から細胞を保護する防御作用を記述した温熱作用で生成される熱ショック蛋白質が体液によ

る自然免疫能を亢進させること

一病 息災

一病 息災

気管支喘息

サナモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

喘息は喘鳴を伴う発作性の呼吸困難をきたす疾患で、近年増加傾向にあり、従来は1~2%であった発生頻度が最近では3~4%、つまり100人に3、4人は喘息患者と報告されています。この喘鳴とは、ゼーゼー、ヒューという細くなつた気管支を空気が通過する際に生じる音で、喘息に伴う呼吸困難は安静時におこりやすく、多くは治療あるいは自然に比較的短時間で消失します。喘息の病因について

病気の解説

ては、遺伝的素因にアレルギー反応などの後天的因素が重なり発作の準備状態が作られた後に、

感染、自律神経失調、気象の変化などが加わり発症すると考えられていますが、患者に共通して見られるごとに、気道反応性(過敏性)の亢進があります。

つまり喘息患者の気管支は、健常人に比べ、とても過敏な状態になつておらず、喘息患者が寒冷になつておらず、喘息患者が寒冷になつておらず、喘息患者が寒冷になつておらず、喘息患者が寒冷になつておらず、

よう、喘鳴と呼吸困難ですが、

よう、喘鳴と呼吸困難ですが、

症例：60歳、女性。

主訴：発作性の呼吸困難。咳。痰。

起始・経過：約半年前から明らかな誘

因もなく、発作性に呼吸困難を認めるようになったため近医を受診。レントゲン検査では肺に器質的異常を認めず、聴診にて喘鳴が聴取されたことから気管支喘息と診断された。

発作は夜間就寝時に多くみられ、強い発作で呼吸困難に陥った時には、気管支拡張薬の吸入を使用した。

治療：側臥位にて45分、4灯照射。頸部～前胸部(BD)、背部(BD)、膝(AB)、足裏(AB)。

経過：在宅での光線療法を毎日約1時間続けながら、月に1、2回の頻度で全身照射を開始。一時的に咳と痰の量が増加したが、その後呼吸は楽になり、以前と比較して喘息発作の頻度は減少し、吸入薬もほとんど使用しなくなった。

よう、喘鳴から呼吸困難が強くなると坐つて前かがみの姿勢をとり、いわゆる起坐呼吸を呈します。この他、咳や痰などもよくみられる症状の一つで、とくに感冒や気管支炎などの呼吸器感染症を併発した場合は発熱を伴います。喘息の予後は、大人より小児の方が良好で、小児の半数は大人になるまでに治り、残り半数のうち $\frac{2}{3}$ は軽い発作が残存するのみで、 $\frac{1}{3}$ は症状が変わらないか悪くなると考えられています。これに対して大人の場合、治療成績は小児より悪く

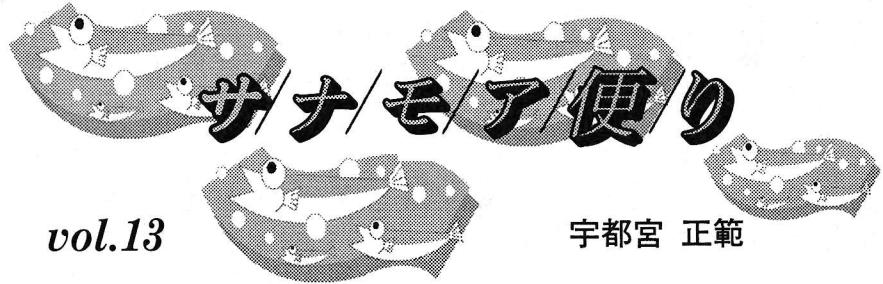
になります。この他、咳や痰などもよくみられる症状の一つで、とくに感冒や気管支炎などの呼吸器感染症を併発した場合は発熱を伴います。喘息の予後は、大人より小児の方が良好で、小児の半数は大人になるまでに治り、残り半数のうち $\frac{2}{3}$ は軽い発作が残存するのみで、 $\frac{1}{3}$ は症状が変わらないか悪くなると考えられています。これに対して大人の場合、治療成績は小児より悪く

3年以上発作を認めた人は全體の20~30%程度とされており、症状のコントロールが困難な難治性喘息は、大人の約15%に認められます。

病気と光線療法

喘息治療の基本は、喘息発作をいかに予防するかにあります。このためには、日頃から規則正しい生活を心がけ、なるべく飲酒、過労、ストレスを避け、適度な運動と鍛錬が必要です。とくに乾布摩擦や日光浴による皮膚の鍛錬と複式呼吸による呼吸の鍛錬は重要かつ効果的です。サナモア光線療法により期待される効果は、気管支の拡張や痰など分泌物の排泄促進にあります。しかし、免疫力を強化することによって、喘息発作の引き金となるかぜにかかりにくい体质に改善する作用もあります。ただし、一部の患者さんで光線療法を開始した際、陽性反応として、咳や痰が増加することがあります。が、光線療法の継続により症状が軽快しますので心配なさらな

第八期
サナモア光線治療師
養成講座のお知らせ
第八期サナモア光線治療師養成講座を、五月に東京にて開講します。光線治療院の開業を検



宇都宮 正範

日時..四月十九日(土)午後二時
場所..サナモア光線治療院
三階会議室

第十三回 「光と熱研究会」の お知らせ

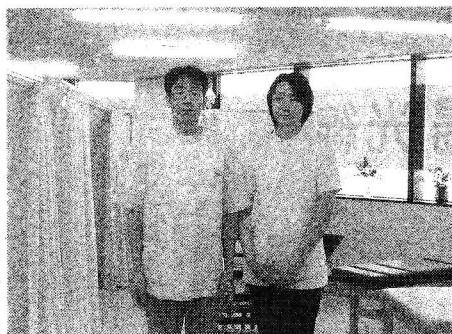
医療に関連した話題の講演や
治験例の報告を中心とした研究
会を開催していますので、一般
のご愛用者の方も是非ご参加下
さい。なお参加は無料です。

討されている方やサナモア光線
療法について勉強したいとお考
えの方は、是非、ご連絡ください。

開講日程

5月29日(木)
5月30日(金)
5月31日(土) 午前10時~午後5時

問い合わせ先 サナモア光線治療院
TEL 03-5759-3710



森川嘉文先生御夫妻



関根榮一先生

整体院 (写真上)
(平成十四年六月一日開院)
電話..〇九一一五〇一三五八二

太陽光線治療院・森川嘉文
住所..福岡県大野城市下大利一
一三一一大野城センター
ビル3F

交通..西鉄大牟田線下大利駅下
車徒歩一分
または、JR鹿児島本線
水城駅下車徒歩七分

関根治療室 (写真下)
(平成十四年六月一日開院)
電話..〇四五一五九三一三八一〇
(予約制)

関根治療室 (写真下)
(平成十四年六月一日開院)
電話..〇四五一五九三一三八一〇
(予約制)

住所..横浜市都筑区東山田町
一三八一二五
交通..東急東横線綱島駅からバ
ス3番(道中坂下経由)
に乗車し、東山田町バス
停下車徒歩三分。車の場
合は、第三京浜都筑IC

院長..森川嘉文先生
一言..光線療法と整体を組み合
わせることにより、治療
効果の向上を目指してお
ります。病気でお困りの
方のお役に立てれば幸い
です。

室長..関根榮一先生
一言..私は過労性網膜はく離手
術後の硝子体混濁によ
り、視力が低下し失明す
る危険があつたため、手
に職をつけるべく療術研
修所に入所しました。こ
の時、恩師である宇都宮
光明先生と光線療法に出
会つたわけですが、同期
生に硝子体混濁には光線
療法が効くと言われ、自
分で眼の治療を開始した
ところ、四ヶ月後には視
力が嘘のようご回復しま
した。この際に先生から
御教示頂いた閉鎖空間で
の多灯照射療法を実践し
た治療室も、おかげさま
で今年十周年を迎えま
す。

この間、治療方法や効
果、快適性を追及し、様々
な改良を加えて参りました
が、これからも、創意
工夫を重ね、安全かつ快
適で、最も良く治る治療
室を目指し精進を続ける
所存です。

から六分。

前立腺癌で手術を

予定していたが

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

症例

72歳

男性

平成九年九月、尿に血液が混ざっていることに気が付いたため近医を受診。そこで、前立腺癌の疑いがあると指摘され、大学病院にて精査を実施した。

血液検査では、前立腺癌の腫瘍マーカーであるPSA (ng/ml) 値は47と高値を示しており、腹部CTやMRI、さらに、前立腺の組織検査を施行し前立腺癌と診断された。この際、明らかな他臓器への転移を認めなかつたため、手術治療が選択され、翌年の一月下旬に手術を予定し自宅待機となつた。患者は二十一年來のサナモア愛用者であり、病院での治療と並行して、自宅で光線療法を行いたいと言つて十二月に来所した。

療法経過 主にBDカーボンを使い、時にADカーボンを使用。在宅での治療は、集光器を用いて陰部に30分以上、下腹部20分、

腰部20分照射後、ABカーボンにて膝10分、足裏10分の照射を一日に二、三回するよう指示した。一月に病院を受診した時に、血液検査でPSA 値が32と低下していたため、予定していた手術は一時中止してホルモン療法で経過観察

まで低下していた。

(TEL) 078-331-1358

血液検査でPSA 値は0.1以下

まで低下していた。

(TEL) 078-331-1358

まで低下していた。

(TEL) 07

(四ページから続く)

断された。そこで早速、光線治療を開始し症状は安定していたが、今度は腰痛を認めたため、検査を受け椎間板ヘルニアと診断され、医師から手術を勧められたが、手術を拒否し光線療法で治したいと言つて来所した。そこで、メニエール病と椎間板ヘルニアの両疾患に対して治療を加えることとなつた。療法経過 メニエール病に対する治療にはA-Bカーボンを使用。

体験報告

モア光線治療を受け
赤ちゃんを授かりました

横浜市 吉〇七〇子氏 (31歳主婦) 報告

日頃から手足の冷えに悩まされていた私は生理痛もひどく、頻繁に鎮痛剤を使用していました。そろそろ子供が欲しいと思いついて三か月経った頃、「まずは冷え性の体質改善をしたら」と母の勧めで関根先生の治療室に通うようになりました。治療は下半身を中心に4箇所に光線を照射すること40分。一回目の

治療はとにかく長く感じました。ほんのり暖かかった心地よさは最初の15分だけで、そのうち足先や腰に熱さを感じ、顔だけほてつて息苦しくなったからです。先生は途中で何度も声をかけてくださいるので、その都度状態を説明し、調整していくだけまし。た。治療後、驚いたことに熱さを感じていた下半身は汗をかい



よろこびの母と赤ちゃん

Ireneに入
る前にコッシ
プ一杯の
水を飲む
ことを実
践（とな
るべく日
をあけず
に治療に
通うこと

たり前のようつに使つていた就寝時の湯たんぽも必要なくなつたのです。そして治療中の居眠りも出来るようになつた五回目の治療後、懷妊したと分かりびっくりしました。懷妊後も二回ほど通つたおかげか、妊娠中つわりはほとんどなく、順調に十か月を過ごし安産で男児を出産いたしました。(六ページに続く)

ていませんでした。それほど下半身の血行が滞っていたわけですが、先生曰く「熱さを感じなくなり気持ちよく居眠りできるようになればすぐ子供ができるよ」

とのことでした。一本並かしらん? と半信半疑ながらも治療後は身体が軽くなつてすつきりした気分になりました。サナモア光線治療を続ける際のアドバイスとしては、たくさんの水分をとる

(最初は週に一回、その後週に一回)でした。二回目の治療後(約1ヶ月)の生理を鎮痛剤なしで乗り切ることが出来たことで体質改善の兆しを感じました。またその頃から不思議なくらい手足も暖かくなり、半裸の事無くなり、冬

断された。そこで早速、光線治療を開始し症状は安定していたが、今度は腰痛を認めたため、検査を受け椎間板ヘルニアと診断され、医師から手術を勧められたが、手術を拒否し光線療法で治したいと言つて来所した。そこで、メニエール病と椎間板ヘルニアの両疾患に対し治療を加えることとなつた。

療法経過 メニエール病に対する治療にはA-Bカーボンを使用。

分同時照射。次に、後頭部、脛部、足裏に10分同時照射。さらに仰臥位としてから、右耳部（二号集光器）、左腰部、右膝に15分照射後、左耳部（二号集光器）、右腰部、左膝に15分照射した。治療開始約三か月にて、症状は軽快したが、その後、椎間板ヘルニアを発症したため、椎間板ヘルニアの治療も併せて開始。最初は、B-Bカーボンを使用し、腰痛を和らげる治療を

部に60分。膝、足関節には15分照射し、腹部、後頭部、膝裏、足裏に同時に10分照射。次に仰臥位にて、左腰、右肩、左膝部に15分。右腰、左肩、右膝に15分照射。さらに側臥位にて、腰背部のみに15分照射して終了した。痛みが軽快するまで、自宅での治療も並行して行うよう指示し、日ごろ治療を受けたところ、数日で症状はほぼ軽快した。

募 集 ◆

サナキア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、
サナモア光線療法の普及に
ご協力頂ける方、治療院の
開業を検討なさりたい方は
お問い合わせください

サンモア光線治療院

〒153-0063
東京都目黒区目黒1-23-11
TEL (03) 5759-3710
FAX (03) 5759-3720

(五ページから続く)

ただいま育児に追われ、忙しい日々ではあります。が風邪などひかず、身体も軽く元気に過ごしております。私の場合、サナモア光線治療によって、本来あるべき健康な体に戻れたことで冷え性の改善と妊娠につながりました。サナモア光線治療に出会えて本当に良かったと思っております。関根先生お世話になりました。

関根榮一先生から一言

患者さんの母上が、二年前に膝関節痛の治療のために初来室され、五回の治療で完治されたご縁で、嫁がせた娘二人がいつも妊娠しないことに業を煮やして二人を連れ来室されました。この時、お姉さんは30歳、妹さんは27歳で、ともに、冷え性、月経周期が不規則、月経困難、腰痛が共通の訴えでした。冷え性で飲水量が少ないと、治療当初にのぼせの様な症状が見られることがありました。一日1.8リットル程度の水分を摂

取するよう指導したところ、症状は消失し、快適な中、気持ちよく発汗し、治療中に良く眠ることができます。それができるようになりました。当治療室の不妊症の治療方法は冷え性を治すことから始めますが、これで、月経困難、腰痛症が改善されるにつれて、治療中に発汗し気持ちよく眠れるようになります。出来る限り苦痛を伴わず、快適な治療であることが可能であるとのことです。患者さんは五回目の治療時に

二週間後の七回目の来室時に供を授かったとの嬉しい報告を受けました。また妹さんの方も、やせて虚弱体質でしたが、元気な身体になりましたと御礼の報告を頂きました。

(TEL) 045-593-3810

全国動光線治療器
はつらつさんと
ジヨイントカーボン

サナモアはカーボンの芯剤を完全燃焼させることで最も効果のあるスペクトルを含む光線を放射するように、正面からカーボンをぶつける正面発光式を採用しています。そのため手動式のサナモア7号器・8号器では照射時間が十分強で切れ、長時間の照射にはご不便をお掛けしてきました。この点を改良したのが全

自動光線治療器はつらつさんで、照射時間は5分刻みで60分まで設定でき、時間に合わせてジヨイントできるサナモアカーボンをつないで、おけば、アカーボンを送り安定自動的にカーボンを送り安定した光線を放射します。

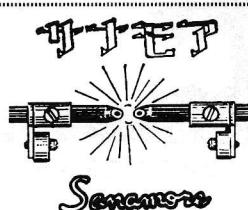
なはつらつさんご使用の際には、安全性を保ち、事故を未然に防ぐため、ジヨイントカーボン以外のカーボンは絶対に使用しないで下さい。使用上の注意は、「はつらつさん取扱説明書」をご覧下さい。

「健康と光線」の購読者を募集します。
また事業の詳細はお問い合わせ下さい。
〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18
サナモア光線協会TEL(03)3793-5281
(本紙の無断転用を禁止します。)

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

一、季刊紙、「健康と光線」の発行
二、サナモア光線治療師の募集と育成の事業を行います。

サナモア光線協会
医学博士 宇都宮 光明



サナモア光線協会
趣意書